

音楽科学習指導案

大阪教育大学 兼平佳枝

【準備】

- ・柱は民謡音階となる五六七八九十（レファソラドレ）に立てておく。
- ・爪有り（親指のみ）
- ・2人で1面

1. 指導内容：

〔共通事項〕旋律（音の進み方：順次進行、跳躍進行）

「指導事項」創作ア、イ（ア）、ウ

2. 単元名：音の進み方を意識して俳句のうたをつくろう

3. 対象学年：中学校3年生

4. 教材：《俳句を用いた旋律づくりの活動》

5. 教材について：

【音楽の背景】

俳句は、5・7・5の17音からなる定型詩で、短い詩の中で、自然や季節感、人間の感情などを表現している。江戸時代には、松尾芭蕉が俳句に季語を取り入れることを提唱したことで、詩の中に特定の季節感を表現する手法が定着した。季語を入れることで、作者が読み手に伝えたい情景や、風情、気持ちなどを短い詩の中で表現することができるようになり、俳句の重要な要素となった。

【音楽のかたち】【音楽のなかみ】【音楽の技能】

俳句では自然の情景や人間の感情などが、季語や様々な表現技法を用いて表現される。俳句を用いて旋律をつくる上で、俳句で表現したいイメージと、音の進み方は密接に関わらせることができる。例えば、上行や跳躍進行を用いることで高揚感を表現したり、下行を用いて終始感や落ち着きを表現したり、自分が表現したいイメージに合わせて、音の進み方を工夫することができる。授業においては、4分の4拍子、4小節のリズムに俳句の言葉を当てはめ、民謡音階に調絃したお箏を用いて旋律づくりの活動を行う。民謡音階を用いる理由としては、気持ちを込めて俳句を詠んだ際の日本語の言葉の抑揚と、日本で古くから用いられてきた民謡音階が最も合っていると考えたからである。

俳句は、詠まれる言葉や読む人の心情によって、音の高低や長短が変化する。生徒各々が作った俳句を用いて、俳句で表現したいイメージがより伝わるような音の進み方や、歌い方の工夫ができるように授業を展開していきたい。

本単元では、修学旅行での思い出をテーマとして国語科で詠んだ俳句に旋律をつけてうたをつくる。

6. 単元目標・評価規準

評価の観点	単元目標・評価規準	具体の学習場面の評価規準
知識・技能	音の進み方を意識して、イメージが伝わるように創作表現をする。	★①表現したいイメージを表すために、音の進み方を意識して俳句のうたをつくって、表現できている。 ★②アセスメントシートに音の進み方について理解を示している。
思考・判断・表現	音の進み方を知覚・感受し、イメージが伝わるように創作表現を工夫する。	①音の進み方について知覚・感受している。 ★②音の進み方を意識して、俳句のイメージが伝わるように、歌い方（強弱、速度など）を工夫している。 ★③音の進み方を意識し、イメージが伝わるように工夫したことをアセスメントシートに書いている。
主体的に学習に取り組む態度	音の進み方に関心を持ち、意欲的に創作活動を行う。	①音の進み方に関心をもち、意欲的に俳句のイメージに合う旋律をつくっている。

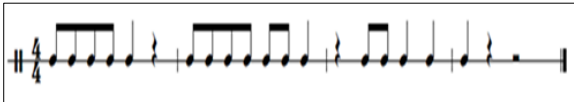
		★②音の進み方を意識し、表現を工夫して、意欲的に俳句のうたをつくっている。
--	--	---------------------------------------

★は主に学習成果をみる評価規準である。

7. 指導計画（全4時間）

ステップ	学 習 活 動	時 数
経 験	自分のつくった俳句に合う旋律をつくり、音の進み方に気付く。	第1時 第2時 第3時
分 析	音の進み方を知覚・感受し、イメージを表現する工夫への手がかりを得る。	
再経験	音の進み方を意識して、イメージが伝わるように表現を工夫する。	
評 価	つくった旋律を発表し合い、音の進み方についてのアセスメントシートに答える。	第4時

8. 展開（全4時間）

活動のねらい	生徒の活動	指導者の活動	評価
経 験	自分のつくった俳句に合う旋律をつくり、音の進み方に気付く。		
■自分の俳句の情景や気持ちなどを想起させる。	1. 国語の時間につくった俳句を交流し合う。	●各自、俳句を書いた短冊を持ち寄り、どんな場面を詠んだのか、どんな気持ちでつくったのかを伝え合うように促す。 ●話し合った内容を数名に発表させる。	
■リズムと言葉の関係をとらえさせる。 まつりのよ たいりん ひかり まいあがる 	2. 自分がつくった俳句をリズムパターンに当てはめて詠む。 S: 中七の言葉が余ってリズムと合わないんですけど。。 T: じゃあ、最後の4分音符を8分音符にしたら。	●「いきなり歌をつくるのは難しいので、まずは俳句をリズムに当てはめてみよう。」と言い、リズム譜を掲示し、教師の範奏に続いてリズム打ちをするよう促す。 ●教師がつくった俳句を、リズムに当てはめて例示したうえで、自分がつくった俳句をリズムに当てはめて歌ってみよう誘う。 ●「リズムにうまく当てはまった？」と問い、字余り、字足らず等でリズムに当てはまっていない生徒の作品は、全体で取り上げてリズムを確認する。 ●「自分の俳句の言葉に合うようにリズムを適宜変えましょう。」と伝える。	
■旋律のつくり方を大まかにとらえさせる。	3. 箏で音を確認しながら、自分がつくった俳句に合う旋律をつくる。 	●五六七八九十（レファソラドレ）に調絃した箏を2名に1面用意する。 ●「先生は、何年か前のお祭りの夜の花火に感動した時の情景を詠んで、こんな風に音を付けました」と言って指導者の歌を例に取り上げ、①必ず6つの音のすべてを使うこと、②最後の音は五か十で終わること、という2つを条件としたつくり方を提示する。 ●俳句に合うように、音を鳴らしながら、歌えるような旋律をつくるように促す。	



■音の進み方の違いを大まかにとらえさせる。

4. つくったうたをペアで交流し合う。

S1: ♪(箏を弾きながら歌う)
S2: (拍手) 最後がいいね。

●必要に応じて、短冊に絃の番号をメモすることを伝える。
●大体の生徒が作り終えたら、「俳句の言葉と絃の番号を書きましょう。言葉の部分はひらがなで書いてください。その音を選んだ理由も書きましょう。」と言ってワークシート①を配付する。

●ペアで、お互いがつくった歌を聴き合うように促す。
●歌のみか、箏を弾きながら歌うかは、自分で選ぶように伝える。
●つくった俳句が歌になるとどんな感じになるかを伝え合うよう声をかける。
●紹介し合ったことを全体で発表させ、発表時は、ペアの生徒も一緒に歌っても良いことを適宜伝える。

分析

音の進み方を知覚・感受し、イメージを表現する工夫への手がかりを得る。

■音の進み方を知覚・感受させる。

5. 同じ歌詞の2種類のうたを比較聴取し、気づいたことと、感じたことをワークシート②に記入した後、クラスで話し合う。

●「前の時間に、先生がつくった俳句の歌を紹介したのですが、覚えてますか？先生はこんな気持ちや情景を表すために、こんな音を使って歌をつくっていましたね。」と言って指導者のつくった歌を楽譜と共に掲示し、再度お箏で弾き歌いをして紹介する。

●「じゃあ、もし音がこのように動いてなかったら、感じ方は変化するのかな？」と問い、指導者の俳句のうたを、A: そのまま演奏、B: 1音だけ変化させた演奏、の2種類を歌いながら演奏する。

●2種類の演奏を比較聴取し、気付いたことや感じたことをワークシート②に記入するよう伝える。

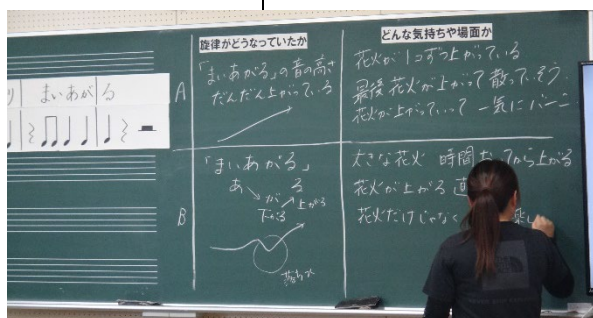
●気付いたことや感じたことをペアで交流した後、発表させる。

●「実際にどうなっていたか確かめてみましょう」と言って、2種類の旋律の動き方の違いを視覚的に示す。

●音の進み方、跳躍進行・順次進行という用語を知らせる。

●AとBの旋律を実際に歌って音の進み方を確認し、音の進み方が変化することで、伝わるイメージも変化することを生徒の発言を取り上げて確認する。

思考・判断・表現
①【発言、ワークシート】



■自分のつくった歌の音の進み方を確認させる。	6. 自分のつくった旋律の音の進み方をワークシートに記入する。	●「自分のつくった歌では音がどんなふうに進んでいるか確認してみましょう」と言って、ワークシート②に自分のつくった歌の弦の番号に○をつけ、音を線で繋げるよう伝える。	主体的に学習に取り組む態度①【観察】
■音の進み方について知覚・感受したことをもとに、表現の工夫への手がかりを得させる。	7. イメージが伝わるように意識して歌い、音の進み方の工夫について交流する。 T: Aくんは順次にするか跳躍にするか悩んでいます。みんなに説明してくれる? SA:「わすれない」っていう部分を、今順次進行にしているんですけど、しっくりこない。。 T: ちょっと歌ってみましょう。 SA: ♪(箏を弾きながら歌う) T: みんな、どう? SB:「絶対忘れない」って感じにするなら、跳躍使ったら? T: なるほど、B君のような意見もありますね。ちょっと試してみようか。 SA: ♪(跳躍進行に変更して箏を弾きながら歌う) 確かにこっちの方がいいかも。 T: こんな風に、みんなも色々試してみてください。	●「先生の歌は、たった1音変えて跳躍進行にただでイメージが変わりましたね。では、自分のイメージをもっと人に伝わるようにするには、どのような音の進み方にしたらいいかな?」と言って、音の進み方を変えたくなったところは変えてもいいことを伝える。 ●変化させた生徒の作品を取り上げて紹介する。	
再経験	音の進み方を意識して、イメージが伝わるように表現を工夫する。		

■イメージが伝わるように表現を工夫させる。	8. 自分の作品のイメージが伝わるように歌い方を工夫する。 S1: ♪(箏を弾きながら歌う)中七の「ながしたなみだ」のところ、どうしたらいいかな？ S2: う～ん。。 S1: どちらの方が、涙が流れてる感じがする？ S2: 順次の方がいいかな。 S1: やっぱり？じゃ、そうしようかな。	●自分の作品で表現したいイメージを再確認させる。 ●そのイメージが伝わるための歌い方を工夫するように促す。 ●考えていく際にはペアになり、一緒に歌いながら考えるように促す。 ●ある程度歌えるようになったら、お箏なしで歌うように促す。 ●適宜、音の進み方以外にも歌い方の工夫として、音の進み方や声の音色、強弱、速度、リズムなどを工夫している生徒を取り上げる。	★主体的に学習に取り組む態度—② 【発言・観察】 ★思考・判断・表現—②
■作品の交流を通して、さらなる表現の工夫への手ごかりを得させる。	9. ペアで、作品の中間発表を行う。	●机間指導で強弱や速度等の工夫がみられる作品を取り上げ「音の進み方だけでなく、歌い方によってもイメージって伝わるんですね。こんな工夫も参考に、さらにイメージが伝わるように考えてみましょう」と言って、工夫を喚起する。 ●引き続き、お互いの作品をペアで歌って発表するよう促す。 ●聴いている生徒には、発表者の音の進み方の工夫によってイメージが伝わってきたかどうかについて交流するように促す。	
■さらにイメージが伝わるように表現を工夫させる。	10. 中間発表で得た新たな手ごかりをもとに、さらにイメージが伝わるように歌い方を工夫する。	●作品が完成している生徒には、ワークシート②のイメージと表現の工夫について記入するよう促す。	
評価	つくった旋律を発表し合い、音の進み方についてのアセスメントシートに答える。		
■学習の成果を発表させる。	11. 一人ずつ自分の作品を発表する。	●発表者には、表現したいイメージを伝えてから演奏するように促す。 ●聴く側は、音楽のどんなところからイメージが伝わってきたかを考えながら聴くように伝える。 ●音楽のどんなところからイメージが伝わってきたかを全体で共有させる。	★知識・技能—① 【演奏】
■音の進み方に対する知覚・感受の学習状況を確認させる。	12. 音の進み方に関するアセスメントシートに記入する。	●自分の俳句の歌のイメージを表すための音の進み方に関する工夫点について記入させる。 ●指導者が用意した俳句の歌を、A 順次進行のみの演奏、B 順次進行と跳躍進行のあ	★思考・判断・表現 — ③ 【アセスメントシート】 ★知識・

		る演奏、の 2 種類で聴かせ、それぞれについてどんな気持ちや場面が想像できたかや、音に進み方がどうなっていたかについて考えるよう促す。	技 能 ② (アセスメントシート)
--	--	---	----------------------

◎本学習指導案は、2023 年度合宿「授業デザイン塾」において提案された学習指導案、および、令和 5 年度第 65 回近畿音楽教育研究大会大阪大会において提案された学習指導案を参考にしている。

絶景や

五七八九

日陰に重なる

六七八九七六五六

観覧車

八九八九十

長崎で

五六七五

友と過した

10989876

初夏の夜

87675

俳句を使って歌をつくろう!

3年()組()番 名前()

(1)リズムに合わせて俳句の言葉と選んだ音の紐の番号を書き入れましょう

俳句

ぜ	っ	け	い	や	ひ	か	げ	に	か	さ	な	る	か	ん	ら	ん	し
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

ひかげに かなる かんらん し

弦の番号

五	ー	七	八	九	五	六	七	九	八	七	六	五	八	九	八	九	十
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

ひかげ

(2) 俳句の内容や気持ちに合った旋律にするために、どのように音をつなげましたか。

「ひかげにかなる」で、あがり上がり、さくり下がるので、重なるをイメージした。
観覧車A回、というのを表すために、全体的に順次進行を多くした。

俳句を使って歌をつくろう!

3年()組()番 名前()

(1)リズムに合わせて俳句の言葉と選んだ音の紐の番号を書き入れましょう

俳句

花	散	る	さ	き	と	も	と	ま	ご	し	た	し	よ	か	の	よ	る
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

花散る さきと もとまごし たしよかのよる

弦の番号

5	6	6	7	5	11	9	6	9	8	7	6	8	7	6	8	5
---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(2) 俳句の内容や気持ちに合った旋律にするために、どのように音をつなげましたか。

花と散るは 花散る音と重なって 楽しかったり 寂しい音にして
修学旅行 終わるさきと まごし 花散る音と重なって
最後は 修学旅行 終わるさきと まごし 花散る音と重なって

アセスメントシート

音の進み方を意識して俳句のうたをつくろう

3年 組 番 名前

■自分の俳句に込めた気持ちや情景、イメージを表すために、どんな工夫をしたかを書きましょう。その際、①②の中の用語を使って、どこで、どんな音の進み方にしたのかを書きましょう。

①【前半・後半・全体的】

②【順次進行・跳躍進行】

私は俳句に込めた

(観覧車が回っているよう) な

気持ちや情景、イメージを表すために

(全体的に順次進行を明く取り入れる)

という工夫しました。

■今から、つぎの俳句を2種類で歌います。それぞれどちらか〇をつけましょう。

なのはなが しあはせそうに きいろして

また、それぞれの感じやイメージを書きましょう。

①	②
<u>順次進行のみでできている</u> 順次進行と跳躍進行の両方が使われている	順次進行のみでできている <u>順次進行と跳躍進行の両方が使われている</u>
感じやイメージ 地面にむって、 一面の菜の花に 囲まれている。	感じやイメージ 鳥のように空の上から 菜の花畑を見下ろして いる。

音の進み方を意識して俳句のうたをつくろう

3年 組 番 名前

■自分の俳句に込めた気持ちや情景、イメージを表すために、どんな工夫をしたかを書きましょう。その際、①②の中の用語を使って、どこで、どんな音の進み方にしたのかを書きましょう。

①【前半・後半・全体的】

②【順次進行・跳躍進行】

私は俳句に込めた

(修学旅行の自分の気持ちを表すために) な

気持ちや情景、イメージを表すために

(最初は順次進行だけど真ん中に入るところで)

11拍目から1番上の音まで跳躍進行にした

という工夫しました。

■今から、つぎの俳句を2種類で歌います。それぞれどちらか○をつけましょう。

なのはなが しあはせそうに きいろして

また、それぞれの感じやイメージを書きましょう。

①	②
順次進行のみでできている	順次進行のみでできている
順次進行と跳躍進行の両方が使われている	順次進行と跳躍進行の両方が使われている
感じやイメージ しあはせそうにの部分はずっと 直線に歌って11拍から 跳躍してしあはせかけと 伝わって来...	感じやイメージ しあはせそうにの部分は ジグザグに歌って しあはせの感情が 伝わって来...